5 ダビデ

聖徒伝 89

「心頑なにされる前に」

Ⅰサムエル記25～26章　またもサウルを見逃すダビデ

Shikaoichurch.com

アウトライン

0.　イントロダクション

Ⅰ.　ナバルとアビガイル　25章

～詩篇63篇～

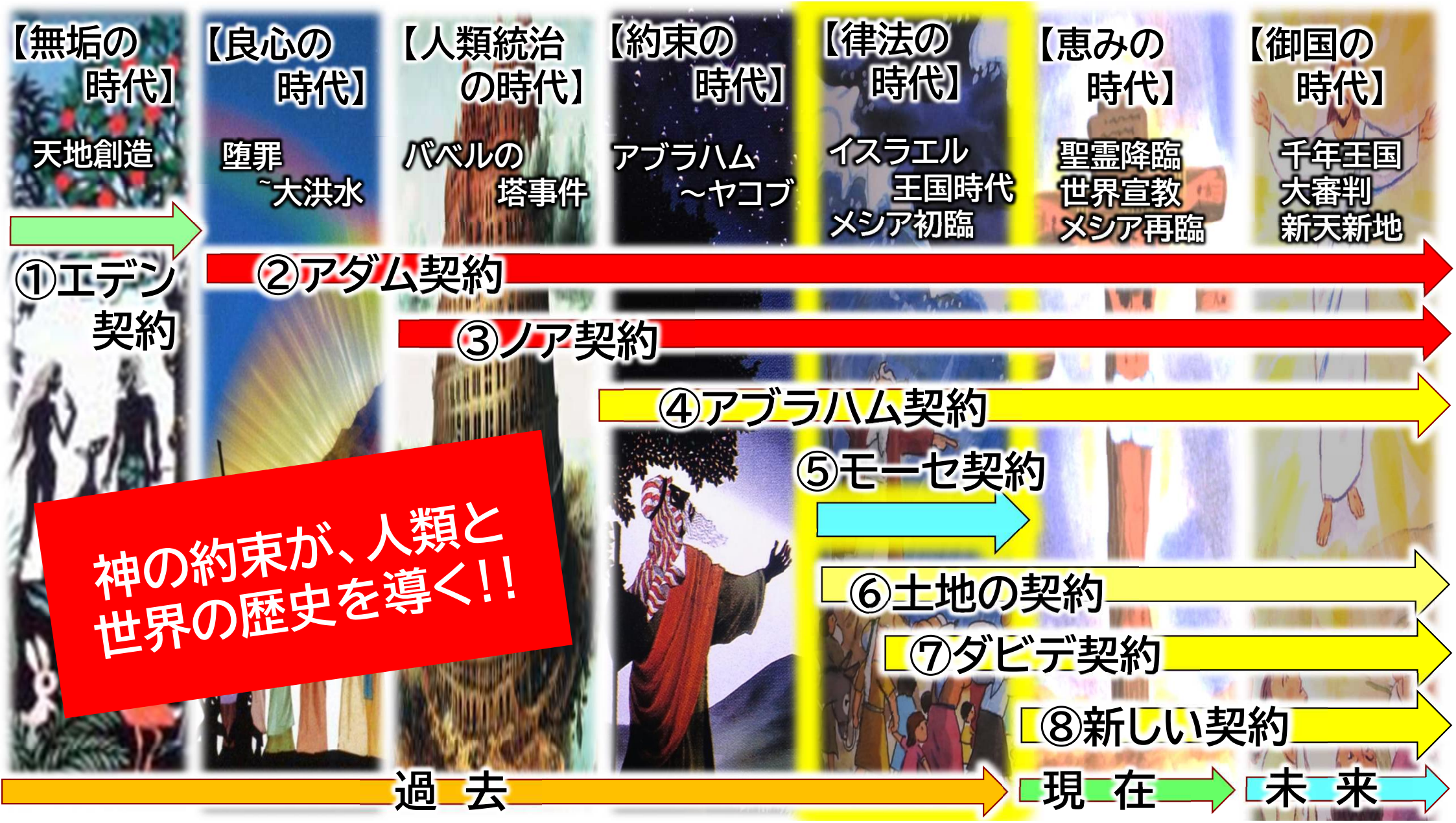
Ⅱ.　再びサウルを見逃すダビデ　26章

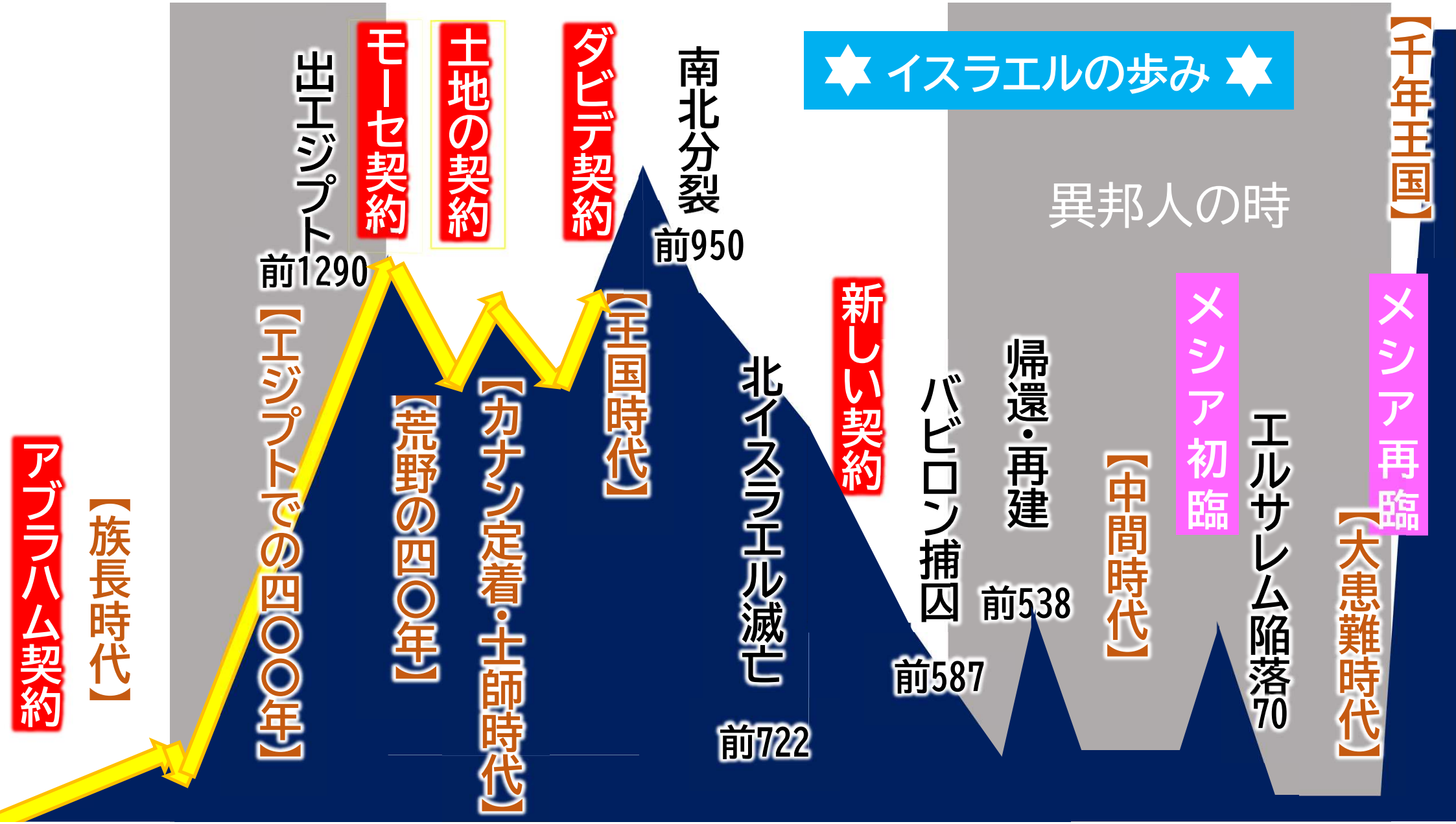
～詩篇7篇～

Ⅲ.　まとめと適用

悔い改めを拒んだ末路を考える

～詩篇12篇～


【無垢の時代】
天地創造
【良心の時代】
堕罪
~大洪水
【人類統治の時代】
バベルの塔事件
【約束の時代】
アブラハム
～ヤコブ
【律法の時代】
イスラエル
王国時代
メシア初臨
【恵みの時代】
聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨
【御国の時代】
千年王国
大審判
新天新地
①エデン契約
②アダム契約
③ノア契約
④アブラハム契約
⑤モーセ契約
⑥土地の契約
⑦ダビデ契約
⑧新しい契約
神の約束が、人類と
世界の歴史を導く!!
過　去
現　在
未　来


イスラエルの歩み
アブラハム契約
【族長時代】
【エジプトでの四〇〇年】
出エジプト
前1290
モーセ契約
【荒野の四〇年】
土地の契約
【カナン定着・士師時代】
ダビデ契約
【王国時代】
南北分裂
前950
北イスラエル滅亡
前722
新しい契約
バビロン捕囚
前587
帰還・再建
前538
【中間時代】
異邦人の時
メシア初臨
エルサレム陥落
70
メシア再臨
【大患難時代】
【千年王国】

サムエル記 第一	士師時代	サムエル	1:1～2:11	サムエルの誕生
			2:12～3:21	サムエルの召命
			4:1～7:17	奪われた契約の箱
			8:1～9:27	後継者不在　王を求める民
	王政時代	サウル	10:11～11:15	油注ぎ
			12:1～25	士師サムエルの民への告別
			13:1～15:35	王が重ねた神への背き
		ダビデ	16:1～13	油注ぎ
			16:14～23	王宮での奉仕
			17:1～58	ゴリヤテとの戦い
			18:1～30	偉大な戦績・王の娘との結婚
			19:1～26:25	荒野の逃亡の日々
			27:1～30:31	ペリシテ人の地で
			31:1～13	サウルの死

サムエル

サウル

ダビデ

【ダビデの油注ぎ】　Ⅰサムエル11～17章

■サウルは、主に背き、神の目に、王権すら剥奪された。

■神は、御心に叶ったダビデを王に立てた。

■ペリシテの巨人ゴリヤテを倒し、名を挙げたダビデに、サウルは、激しい嫉妬から、殺意を抱くようになる。

■命を狙われ逃れるダビデを、執拗に追いかけるサウル。しかし、ダビデは、隠れていた洞穴に、サウル王が知らずに入ってきた絶好のチャンスにも、王に手をかけることはしなかった。

【この時点でダビデがメシアについて知っていたこと】

■“女の子孫”として生まれ、犠牲を払い、悪魔に勝利。（創世記3：15）

■アブラハム　➡イスラエル　➡ユダの子孫に生まれる。（創世記49：10）

■**「ダビデ契約」**を神と結ぶのは、イスラエルの王となってから。
　➡この契約で、ダビデ王家の子孫にメシアが誕生すると明らかに。

■しかし、**「ダビデの詩篇」**には、多くのメシア預言が！！
　➡聖霊に満たされたダビデが神にささげた賛歌。

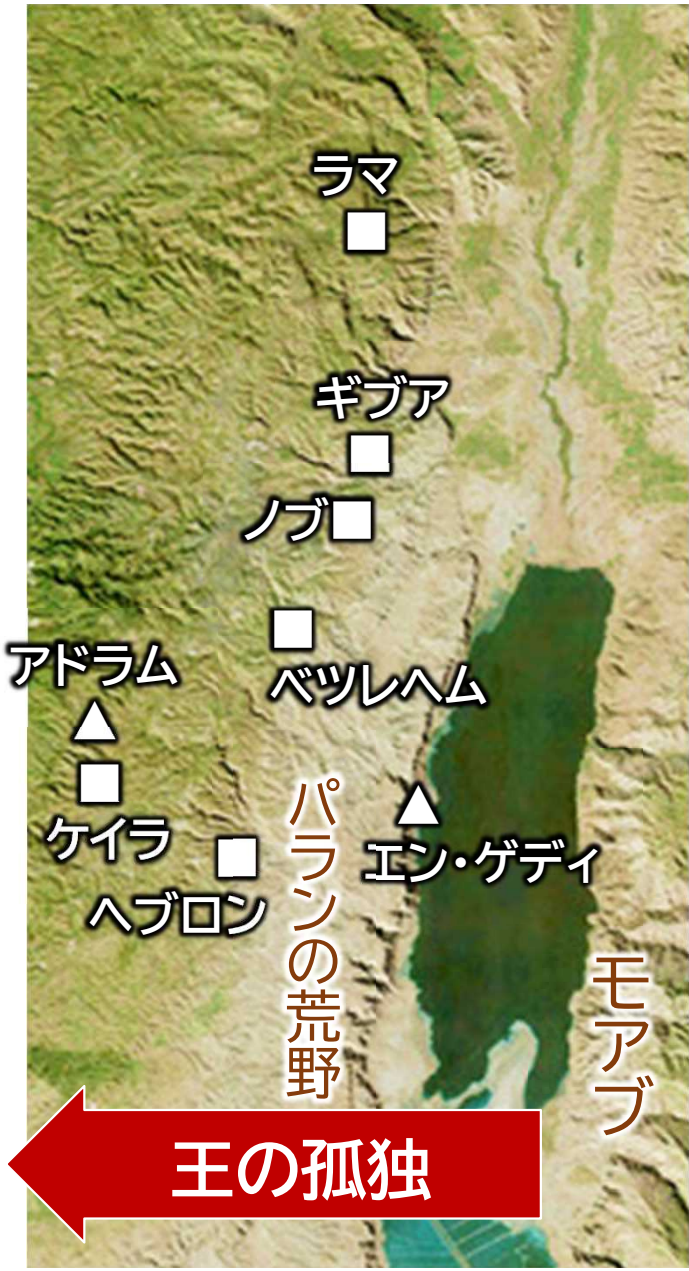
■ダビデは、苦難の中、約束のメシアに救いを求め、
　神から与えられた断片的なメシアの姿を歌った。

Ⅰ．ナバルとアビガイル　Ⅰサムエル記25章

【サムエルの死】　Ⅰサムエル 25:1

サムエルは死んだ。全イスラエルは集まって、彼のために悼み悲しみ、ラマにある彼の家に葬った。ダビデは立ってパランの荒野に下って行った。

- 最後の士師サムエルの死。時代の区切り。
- 完全な王政への移行。しかし、**サウル**は主に見捨てられ、**ダビデ**は逃亡中。
  - ➡暗雲たちこめる王国の将来
- **サウル**に進言できる者は完全にいなくなった。
  - ➡エン・ゲディを離れ、荒野を南下する**ダビデ**。



【ナバルとアビガイル】 Ⅰサムエル25:2～3

マオンに一人の人がいた。カルメルで事業*をしていて、非常に裕福で、羊三千匹*、やぎ千匹を持っていた。彼はカルメルで羊の毛の刈り取りをしていた。

この人の名はナバル*といい、妻の名はアビガイル*といった。この女は賢明で姿が美しかったが、夫は頑迷で行状が悪かった。彼はカレブ人* であった。

＊羊毛を元手にした交易？　＊ヨブの羊は、7千匹。

＊ナバル …「愚か者」 あだ名だろう。

＊アビガイル …「わが父は喜び」

＊カレブ人 …ヨシュアと並ぶ、勇士カレブの子孫。

【毛刈りの祝いの時期に】　Ⅰサムエル25:4～6

ダビデは、ナバルがその羊の毛を刈っている*ことを荒野で聞いた。

ダビデは十人の若者*を遣わし、その若者たちに言った。「カルメルへ上って行ってナバルのところに着いたら、私の名で彼に安否を尋ね、わが同胞に、こう言いなさい。『あなたに平安がありますように。あなたの家に平安がありますように。また、あなたのすべてのものに平安がありますように。」

＊イスラエルなら乾期前の2～3月頃か？

収穫祭のような祝いがあったのだろう（創38章）

＊敬意と期待の表明だろう。

【ダビデのことづけ】　Ⅰサムエル25:7～9

今、羊の毛を刈る者たちが、あなたのところにいるのを聞きました。あなたの羊飼いたちは、私たちと一緒にいましたが、彼らに恥をかかせたことはありませんでした。彼らがカルメルにいる間中、何かが失われることもありませんでした。

あなたの若者たちに尋ねてみてください。彼らはそう報告するでしょう。ですから、私の若者たちに親切にしてやってください。祝いの日に来たのですから。どうか、しもべたちと、あなたの子ダビデに、何かあなたの手もとにある物を与えてください。』」

ダビデの若者たちは行って、言われたとおりのことをダビデの名によってナバルに告げ、答えを待った。

【ナバルの返答】 Ⅰサムエル25:10～12

ナバルはダビデの家来たちに答えて言った。
「ダビデとは何者だ。＊ エッサイの子とは何者だ。
このごろは、主人のところから脱走する家来が
多くなっている。 私のパンと水、それに羊の毛
を刈り取る者たちのために屠った肉を取って、ど
こから来たかも分からない者どもに、くれてやら
なければならないのか。」

ダビデの若者たちは、もと来た道を引き返し、
戻って来て、これら一部始終をダビデに報告した。

＊知らないはずがない。➡軽蔑、侮蔑の極み。
脱走者、盗人、どこの馬の骨とも知れないと。

【激高するダビデ】　Ⅰサムエル25:13～14

ダビデは部下に「各自、自分の剣を帯びよ」と命じた。それで、みな剣を身に帯びた。ダビデも剣を帯びた。四百人ほどの者がダビデについて上って行き、二百人は荷物のところにとどまった。

ナバルの妻アビガイルに、若者の一人が告げて言った。「ダビデがご主人様に祝福のあいさつをするために、荒野から使者たちを遣わしたのに、ご主人様は彼らをののしりました。*」

＊ナバルの行為は、名誉を重んじる世界では最悪の侮辱。

ましてダビデは、イスラエルの誉れ高き戦士。

【賢明なしもべの訴え】　Ⅰサムエル25:15～17

「あの人たちは私たちにとても良くしてくれた*のです。私たちは恥をかかされたこともなく、野で一緒にいて行動をともにしていた間、何も失いませんでした。一緒に羊を飼っている間は、夜も昼も、彼らは私たちのために防壁となってくれました。

今、あなたがどうすればよいか、よく考えてください。わざわいがご主人とその一家に及ぶことは、もう、はっきりしています。ご主人は**よこしま**な方* ですから、だれも話しかけることができません。」

＊元羊飼いのダビデならではの手厚い配慮。

＊聞く耳がない　➡不信仰、よこしまさの現れ

【即断即行のアビガイル】 Ⅰサムエル25:18～20

アビガイルは急いでパン二百個、ぶどう酒の皮袋二つ、料理した羊五匹、炒り麦五セア、干しぶどう百房、干しいちじく二百個* を取って、これをろばに載せ、自分の若者たちに言った。「私の先を進みなさい。あなたがたについて行くから。」 ただ、彼女は夫ナバルには何も告げなかった。

アビガイルがろばに乗って山陰を下って行くと、ちょうど、ダビデとその部下が彼女の方に下って来るのに出会った。

＊祝いで用意していた品を、あるだけ持ち出した？

【間一髪の遭遇】　Ⅰサムエル25:21

ダビデは、こう言ったばかりであった。
「荒野で、あの男のものをすべて守ってやったので、その財産は何一つ失われなかったが、それは全く無駄だった。あの男は善に代えて悪を返した。

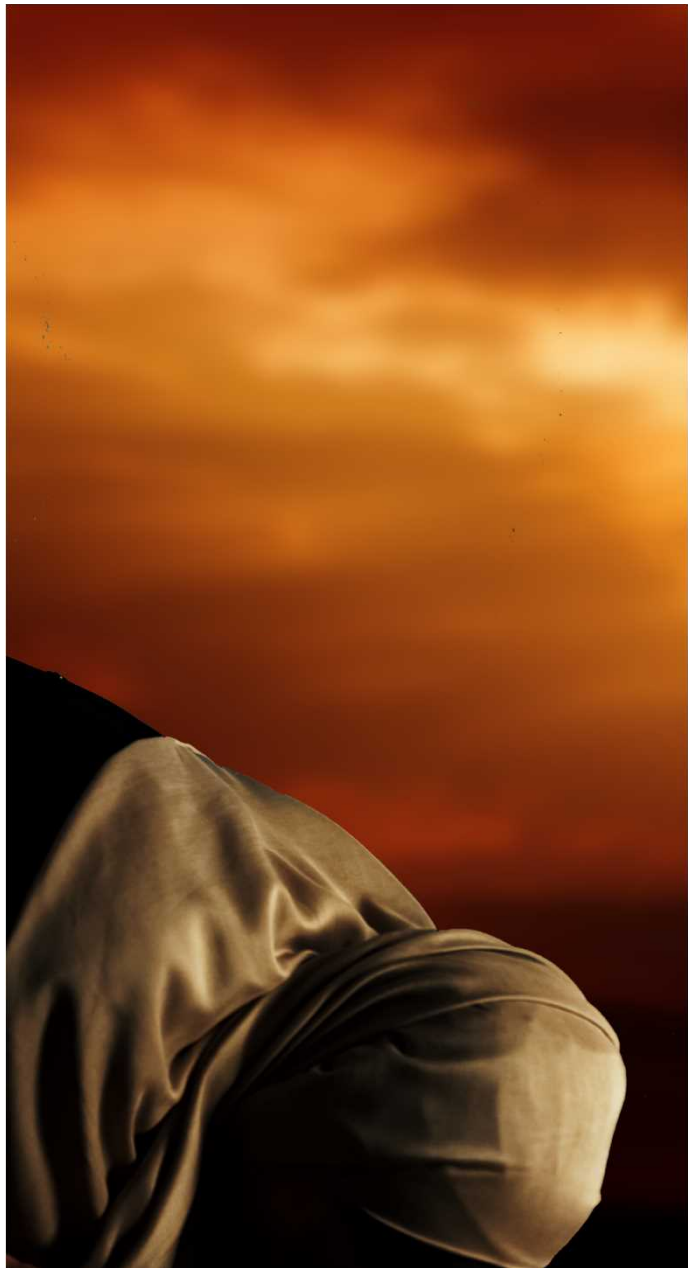
もし私が明日の朝までに、あの男に属する者のうち小童一人でも残しておくなら、神がこのダビデを幾重にも罰せられるように。」

アビガイルはダビデを見ると、急いでろばから降り、ダビデの前で顔を伏せて地面にひれ伏した。

【ひれ伏すアビガイル】　Ⅰサムエル25:24～25

彼女はダビデの足もとにひれ伏して言った。「ご主人様、あの責めは私にあります。どうか、はしためが、じかに申し上げることをお許しください。このはしためのことばをお聞きください。

ご主人様、どうか、あのよこしまな者、ナバルのことなど気にかけないでください。あの者は名のとおりの男ですから。彼の名はナバルで、そのとおりの愚か者です。はしための私は、ご主人様がお遣わしになった若者たちに会ってはおりません。

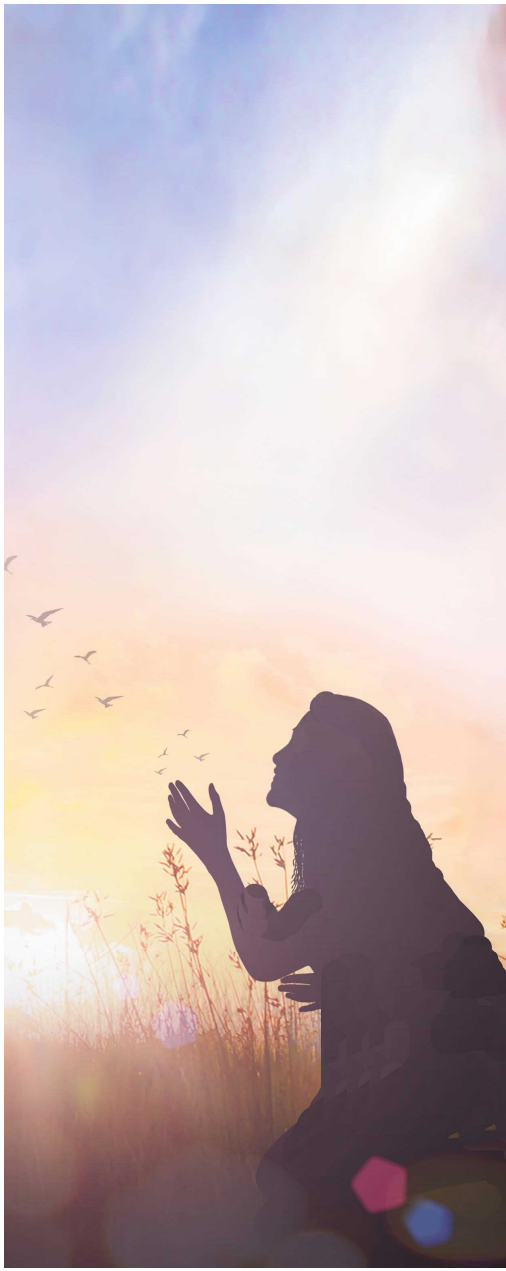


【アビガイルの懇願】　Ⅰサムエル25:26～27

「ご主人様。今、【主】は生きておられます。あなたのたましいも生きておられます。【主】は、あなたが血を流しに行かれるのを止め、ご自分の手で復讐なさることを止められました。あなたの敵、ご主人様に対して害を加えようとする者どもが、ナバルのようになりますように。

今、はしためが、ご主人様に持って参りましたこの贈り物を、ご主人様につき従う若者たちにお与えください。」

＊主の名と主の憐れみに訴えかける**信仰者アビガイル。**

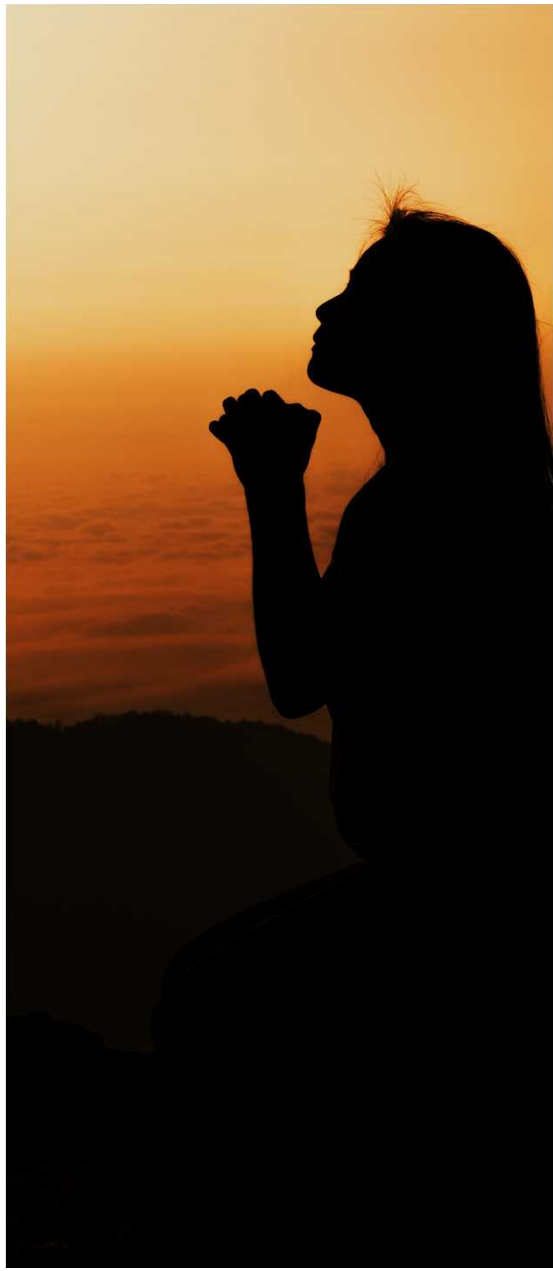


【アビガイルの懇願】　Ⅰサムエル25:28～29

どうか、はしための背きをお赦しください。【主】は必ず、ご主人様のために、確かな家をお建てになるでしょう。ご主人様は【主】の戦いを戦っておられるのですから。あなたのうちには、一生の間、悪が見出されてはなりません。

人があなたを追って、いのちを狙おうとしても、ご主人様のいのちは、あなたの神、【主】によって、いのちの袋にしまわれています。あなたの敵のいのちは、主が石投げのくぼみに入れて投げつけられるでしょう。

■神がダビデ王家を建て、ダビデをとこしえに守る。



【アビガイルの懇願】　Ⅰサムエル25:30～31

【主】が、ご主人様について約束なさったすべての良いことをあなたに成し遂げ、あなたをイスラエルの君主に任じられたとき、＊ 理由もなく血を流したり、ご主人様自身で復讐したりされたことが、つまずきとなり、ご主人様の心の妨げとなりませんように。【主】がご主人様を栄えさせてくださったら、このはしためを思い出してください。」

＊ダビデが王となると確信しているアビガイル。

■アビガイルの決死の訴えは、単なる懇願を超え、預言的な内容となった。➡真の信仰者の証し。

【聞き入れたダビデ】　Ⅰサムエル25:32～34

ダビデはアビガイルに言った。「イスラエルの神、【主】がほめたたえられますように。主は今日、あなたを送り、私に会わせてくださった。

あなたの判断がほめたたえられるように。また、あなたが、ほめたたえられるように。あなたは今日、私が人の血を流しに行き、私自身の手で復讐しようとするのをやめさせた。

イスラエルの神、【主】は生きておられる。主は私を引き止めて、あなたに害を加えさせなかった。もし、あなたが急いで私に会いに来なかったなら、きっと、明け方までにナバルには小童が一人も残らなかっただろう。」

【ナバルの死】　Ⅰサムエル25:35～38

ダビデはアビガイルの手から、彼女が持って来た物を受け取り、彼女に言った。「安心して、家へ上って行きなさい。見なさい。私はあなたの言うことを聞き、あなたの願いを受け入れた。」

アビガイルがナバルのところに帰って来ると、ちょうどナバルは、自分の家で**王の宴会のような宴会**を開いていた。ナバルが上機嫌で、ひどく酔っていたので、アビガイルは明け方まで、何一つ彼に話さなかった。

朝になって、ナバルの酔いがさめたとき、妻がこれらの出来事を彼に告げると、彼は気を失って石のようになった。十日ほどたって、**【主】**はナバルを打たれ、彼は死んだ。

【ダビデの申し入れ】　Ⅰサムエル25:39～40

ダビデはナバルが死んだことを聞いて言った。「【主】がほめたたえられますように。主は、私がナバルの手から受けた恥辱に対する私の訴えを取り上げ、このしもべが悪を行うのを引き止めてくださった。【主】はナバルの悪の報いをその頭上に返された。」ダビデは人を遣わして、アビガイルに自分の妻になるよう申し入れた。*

ダビデのしもべたちはカルメルのアビガイルのところに来て、彼女に、「ダビデはあなたを妻として迎えるために私たちを遣わしました」と言った。

＊当時やもめを妻に迎えるのは、慈悲深い行為。

【アビガイル、妻となる】　Ⅰサムエル25:41～44

彼女はすぐに、地にひれ伏して礼をし、そして言った。「さあ。このはしためは、ご主人様のしもべたちの足を洗う女奴隷となりましょう。」

アビガイルは急いで用意をして、ろばに乗り、彼女の五人の侍女を後に従え、ダビデの使者たちの後に従って行った。彼女はダビデの妻となった。

ダビデはイズレエルの出であるアヒノアムを妻としていたので、二人ともダビデの妻となった。

サウルはダビデの妻であった自分の娘ミカルを、ガリム出身のライシュの子パルティに与えていた。

詩 篇 63 篇

ダビデの賛歌。ダビデがユダの荒野にいたときに。

63:1 神よあなたは私の神。私はあなたを切に求めます。
水のない衰え果てた乾いた地で
私のたましいはあなたに渇き
私の身もあなたをあえぎ求めます。
63:2 私はあなたの力と栄光を見るために
こうして聖所で　あなたを仰ぎ見ています。
63:3 あなたの恵みは　いのちにもまさるゆえ
私の唇は　あなたを賛美します。

63:4 それゆえ私は　生きるかぎりあなたをほめたたえ
　　あなたの御名により両手を上げて祈ります。
63:5 脂肪と髄をふるまわれたかのように
　　私のたましいは　満ち足りています。
　　喜びにあふれた唇で　私の口はあなたを賛美します。

63:6 床の上で　あなたを思い起こすとき
　　夜もすがら　あなたのことを思い巡らすときに。
63:7 まことに　あなたは私の助けでした。
　　御翼の陰で　私は喜び歌います。
63:8 私のたましいは　あなたにすがり
　　あなたの右の手は　私を支えてくださいます。

63:9 私のいのちを求める者どもは滅び
地の深い所に行くでしょう。
63:10 彼らは剣の力に渡され 狐の餌食となるのです。
63:11 しかし 王は神にあって喜び
神にかけて誓う者は みな誇ります。
偽りを言う者の口が封じられるからです。

Ⅱ．　再びサウルを見逃すダビデ　　Ⅰサムエル記26章

【執心のサウル】 Ⅰサムエル26:1～2

ジフ人* がギブアにいるサウルのところに来て言った。「ダビデはエシモンの東にあるハキラの丘に隠れているのではないでしょうか。」

サウルは立って、三千人のイスラエルの精鋭*とともに、ジフの荒野へ下って行った。ジフの荒野でダビデを捜すためであった。

＊またしてもユダの同胞ジフ人の密告(23:1)

＊エン・ゲディの時に招集した精鋭部隊か？

➡解散させず、悔い改めなく、王権に執着。

【サウルの幕営】　Ⅰサムエル26:3～5

サウルは、エシモンの東にあるハキラの丘で、道の傍らに陣を敷いた。一方、ダビデは荒野にとどまっていた。ダビデは、サウルが自分を追って荒野に来たのを見て、偵察を送り、サウルが確かに来たことを知った。

ダビデは立って、サウルが陣を敷いている場所にやって来た。そしてダビデは、サウルと、その軍の長ネルの子アブネル＊ が寝ている場所を見つけた。サウルは幕営の中で寝ていて、兵たちは彼の周りに宿営していた。

＊アブネルは、サウルのおじ。王国の将軍。

【サウルの陣営へ】　Ⅰサムエル26:6～8

ダビデは、ヒッタイト人＊ アヒメレクと、ヨアブ＊ の兄弟で、ツェルヤの子アビシャイ＊ に言った。「だれか、私と一緒に陣営のサウルのところへ下って行く者はいないか。」　アビシャイが答えた。「私が一緒に下って参ります。」

＊アブラハムにマクペラの墓地を売った土着の民。

＊後にイスラエルの将軍となる。

＊後に、30人の勇士の筆頭に数えられる。

（Ⅱサム23:18）

【サウルの枕元で】　Ⅰサムエル26:7～8

ダビデとアビシャイは夜、兵たちのところに来た。見ると、サウルは幕営の中で横になって寝ていて、彼の槍が、枕もとの地面に突き刺してあった。＊ アブネルも兵たちも、その周りに眠っていた。

アビシャイはダビデに言った。「神は今日、あなたの敵をあなたの手に渡されました。どうか私に、槍で一気に彼を地面に突き刺させてください。二度することはしません。」

＊頭を守る意味。ヤコブの石枕と同じ（創世記28:11）

【戒めるダビデ】　Ⅰサムエル26:9～11

ダビデはアビシャイに言った。「殺してはならない。【主】* に油注がれた方に手を下して、だれが罰を免れるだろうか。」

ダビデは言った。「【主】は生きておられる。【主】は必ず彼を打たれる。時が来て死ぬか、戦いに下ったときに滅びるかだ。 私が【主】に逆らって、【主】に油注がれた方に手を下すなど、絶対にあり得ないことだ。さあ、今は、枕もとにある槍と水差しを取って、ここから出て行こう。」

■この時、ダビデを導いたのは、【主・ヤハウェ】*

【立ち去ったダビデ】　Ⅰサムエル26:12～13

ダビデはサウルの枕もとの槍と水差しを取り、二人は立ち去ったが、だれ一人としてこれを見た者も、気づいた者も、目を覚ました者もいなかった。【主】が彼らを深い眠りに陥れられたので、みな眠り込んでいたのである。

ダビデは向こう側へ渡って行き、遠く離れた山の頂上に立った。彼らの間には、大きな隔たりがあった。

■主がこの状況を作られ、自分を試されたと
　ダビデはよく理解していた。

【ダビデの呼びかけ】　Ⅰサムエル26:14～16

ダビデは、兵たちとネルの子アブネルに呼びかけて言った。「アブネル、返事をしないのか。」アブネルは答えて言った。「王を呼びつけるおまえはだれだ。」

ダビデはアブネルに言った。「おまえは男ではないか。イスラエル中で、おまえに並ぶ者があるだろうか。おまえはなぜ、自分の主君である王を護衛していなかったのか。兵の一人が、おまえの主君である王を殺しに入り込んだのだ。

おまえのやったことは良くない。【主】に誓って言うが、おまえたちは死に値する。おまえたちの主君、【主】に油注がれた方を護衛していなかったのだから。今、王の枕もとにあった槍と水差しが、どこにあるか見てみよ。」

【サウルに訴えるダビデ】　Ⅰサムエル26:17～18

サウルはダビデの声と気づいて、言った。「わが子ダビデよ、これはおまえの声ではないか。」ダビデは答えた。「わが君、王様。私の声です。」

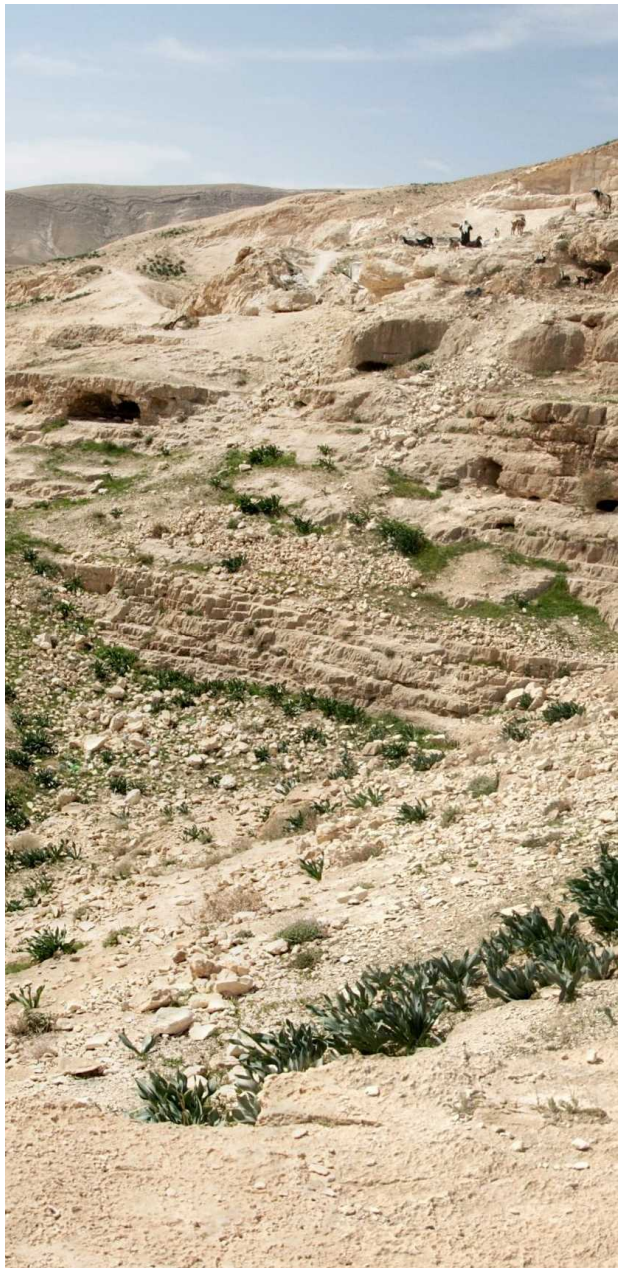
そして言った。「なぜ、わが君はこのしもべの後を追われるのですか。私が何をしたというのですか。私の手に、どんな悪があるというのですか。」

【サウルの罪の本質】　Ⅰサムエル26:19

「わが君、王様。どうか今、しもべのことばを聞いてください。もし私に敵対するようあなたに誘いかけたのが【主】であれば、主がささげ物を受け入れられますように。しかし、それが人によるのであれば、その人たちが【主】の前でのろわれますように。彼らは今日、私を追い払って、【主】のゆずりの地にあずからせず、『行って、ほかの神々に仕えよ』* と言っているからです。」

＊偶像礼拝の大罪を神の民に促す者こそ悪の極み。

➡しかし、このままでは約束の地を離れるしかない。



【サウルの罪の指摘】　Ⅰサムエル26:20～21

「どうか今、私の血が【主】の御顔から離れた地に流されることがありませんように。イスラエルの王が、山でしゃこ* を追うように、一匹の蚤を狙って出て来ておられるのですから。」

　サウルは言った。「私が間違っていた。わが子ダビデよ、帰って来なさい。もう、おまえに害を加えない。今日、おまえが私のいのちを尊んでくれたのだから。本当に私は愚かなことをして、大変な間違いを犯した。」

＊ヤマウズラ
（partridge）
…きじ科の小型の鳥。

＊信仰者を神から引き離すのはまさに悪の業。

【ダビデが尽くした忠孝】　Ⅰサムエル26:22～23

「ダビデは答えて言った。「さあ、ここに王の槍*があります。これを取りに、若者の一人をよこしてください。

【主】は一人ひとりに、その人の正しさと真実に応じて報いてくださいます。【主】は今日、あなたを私の手に渡されましたが、私は、【主】に油注がれた方に、この手を下したくはありませんでした。」

＊サウルは、槍でダビデの命を二度狙った。

■ダビデは確かに、油注がれた王への敬意を尽くし、神への忠実を証しした。

【ダビデの道、サウルの道】　Ⅰサムエル26:24～25

「今日、私があなたのいのちを大切にしたように、【主】は私のいのちを大切にして、すべての苦難から私を救い出してくださいます。」

　サウルはダビデに言った。「わが子ダビデよ、おまえに祝福があるように。おまえは多くのことをするだろうが、それはきっと成功する。」

　ダビデは自分の道を行き、サウルは自分のところへ帰って行った。

■信仰の確信を強めたダビデ。

■自らを問うことなく、悔い改めないままのサウル。

詩 篇 7 篇

ダシガヨンの歌。ダビデによる。
ベニヤミン人クシュのことについて【主】に歌ったもの。

7:1 私の神 【主】よ 私はあなたに身を避けます。
どうか 追い迫るすべての者から
私を救い 助け出してください。
7:2 彼らが獅子のように 私のたましいを引き裂き
助け出す者もなく さらって行かないように。

7:3 私の神【主】よ　もしも私がこのことをしたのなら
　　もしも私の手に不正があるのなら
7:4 もしも　私が親しい友に悪い仕打ちをしたのなら
　　また　私に敵対する者から　ゆえなく奪ったのなら
7:5 敵が　私のたましいに追い迫り　追いつき
　　私のいのちを地に踏みにじるようにし
　　私の栄光をちりの中に埋もれさせてください。 セラ

7:6 【主】よ　御怒りをもって立ち上がり
　　私の敵の激しい怒りに対して　ご自身を高くし
　　私のために目を覚ましてください。
　　あなたはさばきを定められました。
7:7 国民の群れをあなたの周りに集め
　　その上の高いみくらにお帰りください。
7:8 【主】は　諸国の民にさばきを行われます。
　　私の義と　私にある誠実にしたがって
　　【主】よ　私をさばいてください。

7:9 どうか　悪しき者の悪が後を絶ち
　　あなたが正しい者を堅く立てられますように。
　　正しい神は　心の深みまで調べられます。
7:10 私の盾は神にあり　神は心の直ぐな人を救われます。
7:11 神は正しい審判者　日々憤る神。
7:12 立ち返らない者には剣を研ぎ
　　弓を張って　狙いを定められます。
7:13 その者に向かって　死の武器を構え
　　その矢を燃える火矢とされます。

7:14 見よ　その者は不法を宿し
　　害悪をはらみ　偽りを産んでいます。
7:15 彼は穴を掘って　それを深くし
　　自分が作った穴に落ち込みます。
7:16 その害悪は自分の頭上に戻り
　　その暴虐は自分の脳天に下ります。
7:17 私は【主】をほめたたえます。
　　その義にふさわしく。
　いと高き方 【主】の御名をほめ歌います。

Ⅲ. まとめと適用　悔い改めを拒んだ末路を考える

【ナバルの罪を考える】

■与えられた富は、すべて主からのもの。

■ナバルは、先祖カレブの信仰の戦いの上に獲得された地にいて、
油注がれたダビデによって、大事な財産である羊を守られていた。
➡ダビデを軽蔑したナバルは、先祖カレブの信仰をないがしろにし、
さらには、神をも拒む大罪を犯した。

■私たちの信仰生活そのものが、神から与えられた一方的な恵み。
多くの信仰者の戦いにゆえに勝ち取られ、今も支えられているもの。

■霊的戦いの最前線に立つ信仰者を軽んじるならナバルと同様。
その働きに感謝し、覚え、具体的に支援しているか。問われる。

【サウルが重ねた罪を考える】

■ダビデこそ神が油注がれた真の王と知りながらも、悔い改めず、
王権の委譲どころか、またしても討伐隊を率いて来たサウル。
➡十の災いを招いたパロのような。頑なにされた姿がある。

■憐れみ深い神は、私たちの過ちを指摘され、何度でも、悔い改めの
機会を与えて下さるが、チャンスはいつまでもあるわけではない。

■今悔い改めねばという切迫した時がある。アビガイルは逃さなかった。
主に頑なにされるのは、明確に示された事柄を拒み通したその結果。
➡神の裁きは、最終的には本人自身の選びが招くもの。

【悔い改めの本質を心に刻もう】

■悔い改めとは、過ちに気づいた者が、主に立ち返って歩み出すこと。
悔い改めのような言葉を、口にしつつ、何の行動も伴わないなら、
神を欺いていることに他ならない。サウルと何も変わらない。

■口先だけの宗教者を、主イエスは、偽善者と断罪された。
知らされながら実行しない者は、その責任を重く問われる。

■聖書の学びを深めるほどに、応答の責任は増すのだと胸に刻もう。
サウルは次回、最悪の罪を犯し、悲惨な結末を迎えることとなる。

■福音を信じたクリスチャンから救いは失われることはないが、
悔い改めない者には、厳粛な罪の刈り取りがあることをも覚えよう。

【クリスチャンも大罪を犯すことがある。この現実を受け入れよう】

■信仰者だと信頼していた人が、世的にも大きな罪を犯すことがある。

・聖書を読むのが大好きで、片時も手放さなかった人が…。

・福音宣教のために生涯をささげ、惜しまず与えていた人が…。

・労を惜しまず足を運び、兄弟姉妹を励ましていた人が…。

➡信じがたい現実を、容赦なく突きつけられてきた。

■愕然とするけれど、それが人の罪の現実なのだと突きつけられる。
油注がれた王サウルですら、大罪の暗黒に陥っていったのだから。
➡人間の罪に、ありえないことなどない。それが現実。

■聖書を文脈通り読めば、否応なく突きつけられるのは、人の罪の重さ。
罪のゆえ、自分に都合のよい聖書の読み方に誰もが容易に落ちこむ。

【信仰の戦いを戦い抜くために、必要なこと】

■敵は、的確に巧みに私の弱点を攻撃する。神がそれを許されている。
まず必要なのは、自分自身の弱点、欠損をしっかり把握すること。

■克服のために神は必ず、具体的な行動を求められる。
➡サウルに求められた行動は、ダビデへの王権の委譲だった。
自分には、できっこないとたじろぐだろう。それが当然だと認めよう。

■私にはできないと、自分に絶望し、打ち砕かれてはじめて、
あなたは、本当の意味で、主に用いられる器になる。

■主に委ねる他ないと歩み出したその時、聖霊があなたに働かれる。

【必ず直面する私自身の信仰の戦いに、備えて臨もう】

■聖書を正しく学ぶ。最初はそれだけで面白いが、やがて壁にぶち当たる。
必ず噴き出してくるのは、対決を避けてきた自分自身の問題の本質。
求められるのは、行動を伴った具体的な応答。もう逃れる術はない。

■覚悟して向き合えば、主が必ず助けられ、御霊の働きを実感するだろう。
なお逃れ続けるなら、平安は失われ、不安は増していくばかりだろう。

■示された時に、アビガイルのように即断即行する人は幸いだ。
その人は余計なわざわいを逃れ、主の道を真っ直ぐ歩んでいける。
主が与えた試練は実を結ぶが、己の招いたわざわいには喪失しかない。

逃避と喪失の道ではなく、必ず実を結ぶ神の試練の道をこそ選ぼう

詩 篇 12 篇

指揮者のために。第八の調べにのせて。ダビデの賛歌。

12:1 【主】よ　お救いください。
　　敬虔な人は後を絶ち
　　誠実な人は　人の子らの中から消え去りました。
12:2 人は互いにむなしいことを話し
　　へつらいの唇と　二心で話します。

12:3【主】が　へつらいの唇と傲慢の舌を
　　ことごとく断ち切ってくださいますように。
12:4 彼らはこう言っています。
　　「われらはこの舌で勝つことができる。
　　この唇はわれらのものだ。だれが　われらの主人なのか。」

12:5【主】は言われます。
「苦しむ人が踏みにじられ　貧しい人が嘆くから
今わたしは立ち上がる。
わたしは彼を　その求める救いに入れよう。」
12:6【主】のことばは　混じり気のないことば。
土の炉で七度試され　純化された銀。

12:7 【主】よ　あなたは彼らを守られます。
今の代からとこしえまでも　彼らを保たれます。
12:8 人の子の間で　卑しいことがあがめられているときには
悪しき者が　いたるところで横行します。

本当の信仰者は、例外なしにリアリスト。
現実を直視しながらなお、ゆるがぬ希望を神に持つ人。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したこと、を信じます。
主よあなたは、ありのままの自分に向(む)きあうよう、うながされます。
そこには、どうしようもなく　罪にまみれた、絶望的(ぜつぼうてき)な
わたしがいます。
しかし、主よ。打(う)ち砕(くだ)かれた者は　幸(さいわ)いです。
共におられるあなたを、だれより間近(まぢか)に　味(あじ)わい
知(し)ることができるからです。
感謝(かんしゃ)します。ここから　わたしを遣(つか)わしてください。
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」